

半導体メモリーは、パソコン用DRAMの不足が続いている。需要面では、「中国を中心に新興国がけん引する状況は当分変わらない」（アイサプライ・ジャパン）。首位グループを追いかけ、台湾アスースや中国レノボなど2位グループが成長市場でパソコン販売を積極化している。

2010年4～6月期の電子部品・材料の価格は、やや下落する品目が多いが高値圏にとどまる。半導体メモリーはDRAM中心に需要が高水準で品薄状態が続きそうだ。液晶パネルは品種によって異なるが、主流品は新興国向け需要増で底堅い。部品価格は年間を通じて高止まりしそうで、最終製品の値下げやシェア拡大が課題となる家電・パソコンメーカーには厳しい環境。購買や販売価格戦略で、難しいかじ取りを求められそうだ。（一面参照）



個人消費から企業向け需要につなげられるかがポイントに

メモリー

的だ。各社は設備増強を打ち出しているが、供給に結びつくのはまだ先になる。足元で進めている回路線幅の微細化についても、「特に台湾勢の移行がうまく進んでいない」（証券アナリスト）とみられ、製品の歩留まりが低下している。4～6月期に想定して

供給増えず危機感

いたほど供給が増えないとの観測が高まる中で、パソコンメーカーは危機感を強めている。在庫水準が適正とされる1カ月分を大幅に下回っているメーカーも多く、実際の需要量以上にDRAMを発注する動きも出てきているもようだ。

スポット価格は3月後半から急騰し、DDR3型、DDR2型とも、1ギ（ギは10億）品が1個3ドルの高値で推移している。ただ、「パソコンメーカーがDRAM搭載量を減らさざるを得ない」となれば、半導体業界にとつて好ましくない」（エルピーダメモリの坂本幸雄社長）との声も強い。逼迫（ひっぱく）状態は続いて一段の値上がりという局面はなさそうだ。

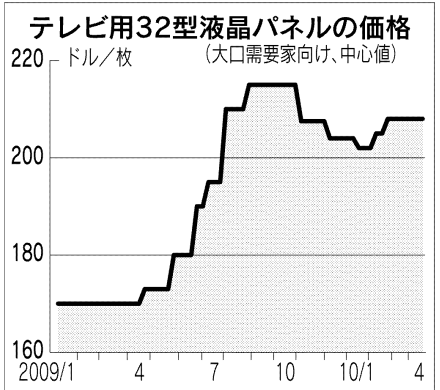
年間通じて高止まりへ

電子部品価格4～6月予測

「液晶パネルはアプリケーションに応じて違いが大きくなってきた」。調査会社ディスプレイサーチ（東京・港）の氷室英利アナリストは、最近の価格動向についてこう指摘する。4～6月期も、用途やサイズのほか、発光タイプード（LED）と蛍光管使用の違いなどで差が出そうだ。テレビ用32型は4月に入っても1枚208ドル前後の高値を維持。例年、

液晶パネル

1～3月期は価格が下がる傾向だが、昨年末の204ドルから値上がりしている。家電量販店の店頭での激しい販売競争が32型で展開されており、部品への引き合いが強いことが一因だ。ソニーは2010年度の液晶テレビ販売目標を



大型は軟調見込む

前年度比6割増の2500万台に設定し、新興国市場を本格的に攻め、シェア獲得姿勢を鮮明にしている。韓国サムスン電子やLG電子なども迎え撃つとしている。

一方、大型液晶パネルは軟調が見込まれる。42型は1枚340ドル前後だが、1割程度は値下がりしそうだ。中国の旧正月商戦で販売が予想を下回ったこともあり、在庫過剰感が広がっている。

分野別ではモニター用液晶が強基調で推移しそうだ。寝室用の2台目市場などで20型前後の小型テレビ向け出荷が拡大しており、堅調なパソコンや日本メーカーの工

急速に普及しているLEDバックライト搭載テレビ向け液晶パネルは需要が旺盛だ。LEDタイプの生産比率が高いサムスン電子などの韓国メーカーや日本メーカーの工

場は依然ほぼフル操業で、「価格提示も強気」という。一方、従来の蛍光管タイプは、今後も価格競争を強いられる可能性が高そうだ。

市況はいったん踊り場を迎えそうだ。例年の1～3月からずれ込んだ格好だ。40型以上の大型サイズは5～10%ほど下落する可能性がある。32型以下については想定以上の需要が続いており、7月以降の供給不足を恐れられた前倒し調達の動きなどで、下げは大型と比べて限定的になりそうだ。



林秀樹社長

需給が非常にタイトな状況は秋口まで続く可能性が高い。需要面で5月の中国・労働節の販売動向、供給面はポトルネットワークなど製造装置導入の進み具合などに注目すべきだろう。



ドイツ証券の中根康夫

32型以下は下げ限定的にドイツ証券の中根康夫